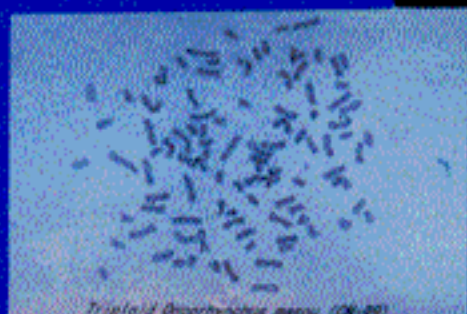
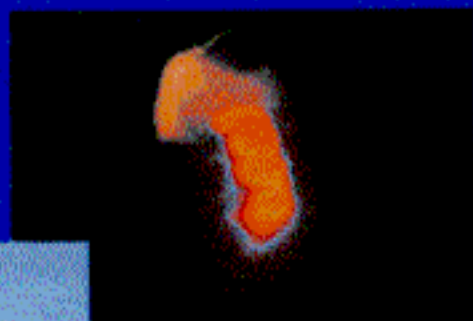


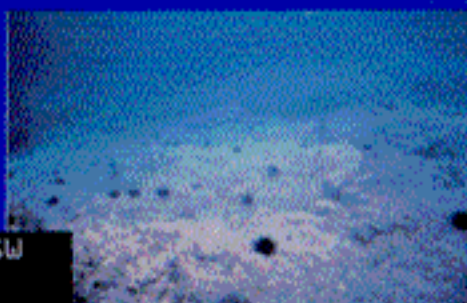
水産試験研究最新成果集

Vol. 1



*Trisulca thymicola* sp. nov. (OK-99)

# 海・川・魚を科学する



平成 8 年 3 月  
北海道水産部



## はじめに

水産業は、自然と道民が共存しながら、豊かで活力のある北海道を築いていく上で地域創造の原動力となる、体質の強い魅力ある産業として発展していくことが求められています。また、近年遊漁やマリンレジャーの増加など、幅広く道民の皆様と水産業の接点も広がってきております。

水産試験場や水産孵化場は、これまで、未利用であったスケトウダラのすり身技術やアカイカの利用技術、さらには、秋サケの放流やホタテガイの増殖など、時代時代のニーズに合わせ技術開発を行い、地域の経済に貢献してきました。

試験研究機関は、いわゆる水産業の基盤部分を支えてきているものであり、現在も、本道の海や川などの特性にあった魚をふやす技術（種苗生産や養殖などの栽培技術）、海や川、湖で、魚や貝などの水産物が枯渇することなく上手に無駄なく活用する技術（資源管理技術）、本道の水産物を利用し新鮮で安全な水産加工品をつくる技術（水産加工技術）など、幅広い分野での調査研究を通じ技術開発を続けており、多様な成果をあげてきています。

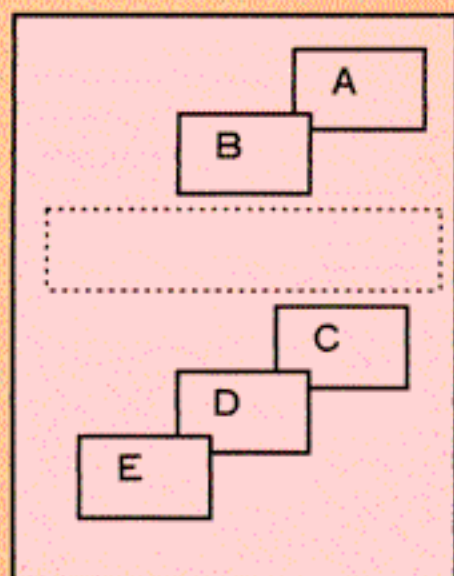
試験研究については、報告書や広報誌などで紹介されてはおりますが、普段、道民の皆様がふれる機会も少ないことから、試験場の活動内容や成果をより詳しく知っていただくために、この度「水産試験研究最新成果集」を発行することとしました。

この成果集は、最新の主な仕事を分かりやすくコンパクトにまとめておりますので、水産試験研究に対して理解をよりいっそう深めていただけるものと考えております。

平成8年3月 北海道水産部長 林 和 明

この冊子は、

- 一般道民の水産試験研究への理解を促進することを目的に
- 最近5年間（平成2年～6年）での主要な成果をわかりやすく
- 新たな技術開発への展開や発展、そして創造のために



### ＝ 表紙の説明 ＝

- A：蛍光標識を付けたサクラマスの子石
- B：性転換手法と染色体の倍加操作によって作られた三倍体サクラマスの染色体
- C：石灰藻で被われた磯焼けの海（日本海寿都沖）
- D：水中テレビで撮影したマダラ（日本海島牧沖）
- E：多くの加工工程を1台でこなすエクストルーダによるサケフレークの製造